



年
組
名前

近年、日本では空き家の増加ぞうかが、深刻な社会問題しんこくになっています。背景はいけいには、人口減少げんじょうや少子高齢化こうれいか、都市部への人口集中など、さまざまなことがあるようです。あなたは、空き家の増加や少子高齢化、人口減少などについて、どんなことを思いますか。下の条件に合わせて書きましょう。

北斗星
空き家

♪ つたのからまるチャペルで——と始まる「学生時代」は故ペギー葉山さん以降、多くの歌手により歌い継がれてきた。秋に紅葉したつたに彩られた洋館はさぞ風情があることだろう。

ただ、つる性の植物が茂りつぱなしの
空き家となれば全く別物。詩人の故茨木
のり子さんの作品「はいおく廃屋」は「つるばら
は伸のび放題」で、「戸さえなく」なつた
「はいきよ山中の廃居」の朽くち果てたありさまを
ようじや容赦なく描く。

15年ほど前、仕事で県境近くの山村集
落を訪ねた。山あいの田んぼを維持し、
清流を活用してワサビ栽培やイワナ養殖
にも取り組んでいた。集落まで車で往復
した際、所々に廃屋を目にして胸が痛ん
だ。集落の高齢化はさらに進んだことだ
ろう。

秋田市郊外こうがいでも最近、「売物件うりぶつけん」の札が立つ空き家をよく目にする。一方で立て札こそないが、全体の様子から人の出入りが途絶とだえていることが察せられる家屋も珍めづしくない。市街地にクマが出没しゅつぷつする昨今、全く手入れされていない庭の草むらに野生動物が潜ひそんでいないかと不安がよぎる。

1人暮らしの親が介護施設に入所後、
実家を10年あま余りも空き家にしていた知り
合いもいた。空き家にはそれぞれ事情が
あることはよく理解りかいできる。

茨木さんの詩は「人が／家に／棲む／
それは絶えず何者かと／果敢に闘つてい
ることかもしれない」と結ばれる。高齢化
の波を受け、果敢な闘いを続けられなく
なる家屋は増え続けるだろう。地方自治
体だけでなく、国の問題として知恵を絞
りたい。

△秋田魁新報2025年9月29日付より。
記事は手直ししています▽

条件

- ・自分の思うことについて具体的に書くこと。
- ・百字以上、百二十字以内にまとめて書くこと。
- ◆の印から書き始め、改行をしないで続けて書くこと。

[illegible]